



アンサンブル室町による 単彩の庭 Monochromer Garten

PROGRAM

新作狂言「単彩の庭」～萩大名より～

—アンサンブル室町版—

Air song II - エアーソング II

Nox (Gold and Silver) III - ノックス (金と銀) III

Monochromer Garten X - 単彩の庭 X

Monochromer Garten XI - 単彩の庭 XI

Concerto pour Koto II - 箏コンチェルト II

作曲 岸野末利加

狂言 和泉淳子

指揮 鷹羽弘晃

芸術監督 大平健介

アンサンブル室町

Ensemble Muromachi

和楽器 + 古楽器

2024年10月25日(金)

開場 18:30 / 開演 19:00

武蔵野市民文化会館小ホール

アンサンブル室町 による単彩の庭

Monochromer Garten

チケット／全席自由チケット
(7月1日発売予定)

前売り：一般 **4500**円 学生 **2500**円
当日：一般 **5000**円 学生 **3000**円

■プレイガイド
カンフェティ

電話予約：0120-240-540*通話料無料
(受付時間 平日 10:00~18:00※オペレーター対応)
<http://confetti-web.com/TOKYO-CONCERTS>

出演

狂言 和泉淳子、和泉 慶子、和泉 和秀

指揮 鷹羽弘晃

古楽器 リコーダー 菅沼起一
バロックヴァイオリン 須賀麻里江
バロックヴァイオリン 高岸卓人
ヴィオラ・ダ・ガンバ 和田達也
バロックチェロ 山田慧
オルガン 大平健介

和楽器 横笛 澄川武史
尺八 黒田鈴尊
箏 三浦元則
笙 石川高
箏 日原暢子
琵琶 久保田晶子
大鼓 山口晃太郎
小鼓 小川実加子

照明 松本永 (eimatumoto Co.Ltd.)

制作協力 東京コンサーツ

アンサンブル室町
Ensemble Muromachi
和楽器 + 古楽器



和泉淳子

史上初女性狂言師。和泉流宗家筆頭控え家当主。19 世宗家 和泉元秀の長女。3歳で初舞台。大曲「三番叟」「奈須と市語」を披き、平成元年国立能楽堂にて「史上初女性狂言師誕生公演」を行う。文部大臣より感謝状授与。平成6年「釣狐」を披く。NHKキャスターレギュラー出演。TVCM大同生命。平成13年女性狂言師協会設立代表。大曲「花子」を披く。海外公演14カ国40都市。令和4年政府主催国際女性会議英語狂言上演。大阪関西万博狂言公演予定。日本女子大学卒業。長女慶子、長男和秀も狂言師。能楽協会会員。高知県ゆすはら未来大使。

大名と従者の太郎冠者は、庭の美しい茶屋に連れ立って遊山に出かける。目の前に広がる想像の庭と音の織りなす庭。現実と空想、夢うつつ、陰と陽、生命、祈り、宇宙。いずれも観る者に内在する感性が紡ぎ出す世界。研ぎ澄まされる感覚と深く広がりゆく心。狂言のエネルギーは最も簡単な現実から、無限に広がる。風流を介さない大名（ひと）が屈託のないおおらかな笑いを纏う。生命力の象徴＝笑い。神事に起源をもつ狂言の世界から、いまアンサンブル室町の新作狂言へ。

和泉淳子

アンサンブル室町

ヨーロッパと日本の《古楽器》、すなわちヨーロッパのルネサンス・バロック時代の楽器と日本の伝統楽器による世界で初めてのアンサンブル。2007年にフランス人チェンバロ奏者で作曲家のローラン・テシュネを代表として結成され、同年『豊臣秀吉の夢』と題する旗揚げ公演を北とびあ国際音楽祭（つつじホール）にて開催。室町という名称は、ヨーロッパの楽器が日本へ伝来した室町時代（16世紀）に由来している。これまでに様々な作曲家、ダンサー・舞踊家、俳優、声楽家など、多彩なジャンルのアーティストと共に「ヨーロッパ+日本」という複文化の対話から、新しい芸術的表現の創造をめざしたコラボレーションを続けてきた。現在のアンサンブルメンバーには、60人以上の邦楽奏者、西洋古楽器奏者を数える。2012年には一般社団法人アンサンブル室町を設立。2013年にサントリー芸術財団第13回佐治敬三賞を受賞。2022年より芸術監督に大平健介が就任。



岸野末利加

1971年京都市生まれ。同志社大学法律学部法律学科卒業。98年パリ・エコール・ノルマル、2003年フランス国立リヨン高等音楽院作曲科卒業後、フランス国立音響音楽研究所（IRCAM）研究員。2006年からドイツのケルンを拠点に作曲活動を行い、ヨーロッパを中心に著名な音楽祭、演奏団体、放送局により作品が委嘱初演、再演、放送されている。NHK交響楽団主催第69回尾高作曲賞受賞。2024-25年度ドイツ政府によるローマ賞（ドイツ・アカデミー・ローマ・ヴィラ・マッシモ）受賞。作品は全てミラノ・スピーニ・ゼルポーニ社から出版されている。
(www.malika-kishino.com)

2011年から書き始めている『Monochromer Garten（単彩の庭）』シリーズでは、与えられた時間の中に音素材を配置し、音楽を作り上げる作曲のプロセスを、石や植物によって空間を構築する日本庭園の作庭として捉えています。一連の作品を進める中で「音」は一旦自由を得ると、それ自身の生命を育み、それ自身の原動力に従うということに気づかされました。私は作曲家として、「音」から学び、「音」の流れを導き、形作っているのです。

岸野 末利加

photo by bozzo

